

教授 辻陽雄

助教授 玉置哲也

助手 山田均

助手 小林健一

1. 研究概要

教室における研究主題は脊椎脊髄外科であり、これに関連する基礎的臨床的研究を展開しつつある。現在行なっている基礎的研究にあつては誘発脊髄波による脊髄機能の解析と障害予防に関する研究、各種末梢神経損傷、脊髄障害における微小循環と機能回復、末梢神経partial lesionに関する修復法と神経再生に関する基礎的問題等でありこれらは開設年度すで、に着手している。臨床にあつては、いわゆるlow back pain syndromeの病態に関する解析、脊椎老化の実相と対策、脊椎外科手術法の技術開発などを行なつてきている。

昭和54年度より新教員の着任に伴い、これに加えて骨肉腫診断に対する診断用myosineの開発研究、椎間板組織奇形と椎間板ヘルニア発生の相関性、および微小循環生理よりする四肢長管状骨成長のコントロール等を計画し、目下準備中である。

2. 学会報告

- 1) 轡辺啓二郎, 山田均, 辻陽雄: 腰部の硬膜内椎間板ヘルニアの3症例, 第50回中部日本整形外科災害外科学会, 1978.4, 大阪.
- 2) Tsuji, H., Yamada, H., Itoh, T., Hosaka, E. and Isono, K.: Anatomical and clinical considerations on lumbar spinal stenosis, caudaequina laxity and its significance., XIV World Congress of Spicot, Oct., 1978, Kyoto.
- 3) Itoh, T., Tsuji, H., Tamaki, T., Yamada, H. and Toyoda, A.: Clinical consideration of the dissociated motor loss syndrome (keegan), XIV World Congress of Spicot, Oct., 1978, Kyoto.
- 4) 玉置哲也, 山田均, 辻陽雄, 中川武夫, 小林英夫: 脊髄障害高位スクリーニングを目的とした傍脊柱筋々電図検査について, 第51回中部日本整形外科災害外科学会, 1978.11, 金沢.
- 5) 山田均, 辻陽雄, 玉置哲也, 小林健一, 鎌田栄, 伊藤達夫, 西能弘, 吉岡勉: 腰部癒着性脊髄膜炎について, 第51回中部日本整形外科災害外科学会, 1978.11, 金沢.
- 6) 玉置哲也, 山田均, 辻陽雄, 小林英夫, 中川武夫, 豊田敦: 誘発脊髄活動電位の基礎的検討, 第8回日本脳波, 筋電図学会学術大会, 1978.10, 金沢.
- 7) 小林英夫, 中川武夫, 井上駿一, 玉置哲也, 山田均: 誘発脊髄活動電位・その臨床応用におけるこ, 三の知見, 第8回日本脳波, 筋電図学会学術大会, 1978.10, 金沢.
- 8) 辻陽雄, 玉置哲也, 山田均, 小林健一: 斜側腹切開による腰椎々体間固定術(映画), 第595回千葉医学会整形外科例会, 1978.12, 千葉.
- 9) 玉置哲也, 山田均, 小林健一, 辻陽雄, 小林英夫, 中川武夫: 誘発脊髄電位の波形分析とその新知見について, 第595回千葉医学会整形外科例会, 1978.12, 千葉.
- 10) Tamaki, T. Prevention of iatrogenic spinal cord lesions., XIV World Congress of Spicot, Oct., 1978, Kyoto.
- 11) 鎌田栄, 藤井保寿, 小林健一, 辻陽雄, 西能枕Ps eudoachondroplasiaと思われる一例, 第595一31回千葉医学会整形外科例会, 1978.12, 千葉.
- 12) 辻陽雄: En-bloc laminectomy, 第51回日本整形外科学会総会, 1978.5, 盛岡.
- 13) 辻陽雄: シンポジウム・多数回手術を要した腰椎疾患への対策——主としてanteriorからの対処——, 第

27回東日本臨床整形外科学会， 1978.9， 札幌.

14) Inoue, S., Tsuji, H., Murata, T., Tamaki, T. and Tanaka, T.: Anterior interbody fusion for the lumbar disc lesion - Long-term followup results over ten years - XIV World Congress of Spine, Oct., 1978, Kyoto.

15) 辻陽雄: 不安定性をともなう腰部椎間板ヘルニアに対するCloward 椎体間固定術変法, 第69回北陸整形外科集談会, 1978.12, 金沢.

3. 原著

1) 山田均, 高木学治, 高橋淳一: 多発骨折症例の検討. 日災医誌26:7-12, 1978.

2) 渡辺恒夫, 宮坂斉, 井上駿一, 玉置哲也, 小林英夫: 教室における切断肢再接着30例の経験. 千葉医学会誌54:235-241, 1978.

3) 渡辺恒夫, 井上駿一, 辻陽雄, 宮坂斉, 伊藤達雄: 頰椎後縦靱帯骨化に対する前方除圧法. 手術32:59-67, 1978.

4) 辻陽雄, 宮坂斉, 高橋和久, 野口哲夫: 頰椎前方除圧, 固定術における術中術後の頰椎姿勢と一過性脊髄障害. 中部整災誌21:450-452, 1978.

5) 保坂瑛一, 辻陽雄, 小林影, 栗原真: Degenerative spondylolysis is redundant nerve root. 整形外科29:538-542, 1978.

6) 伊藤達雄, 辻陽雄, 坂巻時, 布施吉弘: 著明な腰椎側方とりに伴つ paraparesis. 臨床整形外科13:786-789, 1978.

7) Tsuji, H. and Tamaki, T.: Studies on the interosseous blood circulation and bone marrow pressure in human lumbar vertebrae, Internat. Orthop. (Spine) 2:17-24, 1978.

8) 辻陽雄: En-bloc laminectomy, 整形外科, 29:1755-1761, 1978.

4. 総説

辻陽雄: 脊柱の加齢変性と臨床的意義. 総合リハビリテーション6:333-338, 1978.

5. 著書

1) 辻陽雄: 脊髄先天血管奇形, 中山恒明・榊原仔監修・新臨床外科全書, 17:42-46頁, 金原出版, 1978.

2) Tamaki, T.: Clinical application of spinal cord action potentials. Clinical application of spinal cord monitoring for operative treatment of spinal diseases. ed. C. L. Nash, Case Western Reserve Univ., 1978.

6. その他

1) 辻陽雄: 脊髄外科研究会(東京)総括非結核性炎症. 臨床整形外科13:410-412, 1978.

2) 辻陽雄: 肩, 腰, 膝の見方, 考え方——他科のための整形外手術——. 富山保健医協会発行, 1978.

3) 玉置哲也: 第12回S.R.S. meeting(香港会議)印象記. 臨床整形外科13:621-622, 1978.